

石垣島における千葉ロッテマリーンズ春季キャンプの経済効果

－ 経済効果は 13 億 4,300 万円 －

【要 旨】

- 2008 年 2 月、石垣島では官民挙げての熱心な誘致活動により、千葉ロッテマリーンズの春季キャンプが初めて開催された。
- 同キャンプは、2 月 1 日～20 日の日程で開催され、キャンプ見学のための観客数は 31,950 名となり、うち島外からの観客数は約 9,000 名あったものと推察される。
- 波及効果を含めた経済効果について、沖縄県産業連関表により試算した結果、経済効果は 13 億 4,300 万円となった。これは、直接支出額 8 億 3,200 万円に対して約 1.6 倍の波及効果となっている。
- 経済効果 13 億 4,300 万円を産業別にみると、建設業が 3 億 1,800 万円、運輸業が 1 億 8,700 万円、鉱業・製造業が 1 億 5,000 万円、宿泊業が 1 億 3,000 万円などとなっている。
- プロ野球のキャンプは、経済効果だけでなく PR 効果や教育効果など多岐にわたることから、今回のキャンプを一過性のものとするのではなく、今後の地域活性化につなげていくことが求められよう。

1. はじめに

石垣島では、2008 年 2 月に千葉ロッテマリーンズの春季キャンプが初めて開催された。1983 年に中日ドラゴンズが石垣島でキャンプを実施したものの、雨が多く、室内練習場がなかったことなどから 1 年で撤退した経緯がある。

キャンプは、甲子園で活躍した地元、八重山商工出身の大嶺投手のロッテ（以下、球団名は「ロッテ」のような略称を用いる）入りや室内練習場の完成がきっかけとなり、官民挙げての熱心な誘致活動により実現した。

当社では、地域の熱心な取り組みを応援し、今後の取組みに役立てればと企図し、初めてとなる石垣島での春季キャンプの経済効果について試算した。

2. キャンプの概要

石垣島でのロッテ春季キャンプは、2 月 1 日～20 日の 20 日間の日程で開催された。その間、選手・球団関係者の滞在者数は約 90 名となり、解説者、報道関係者の滞在者数は延べ 800 人、キャンプ見学の観客数は 31,950 名となり、うち県外（沖縄本島などからの島外からも含む）からの観客数は約 9,000 名と推察される。

期間中、キャンプが開催された石垣市中央運動公園では、バレンタイン監督や主力選手などの紹介用の大きなパネルのほか、選手の顔写真入りのフラッグが、公園内に掲げられキャンプを盛り上げた。また、石垣島出身の大嶺投手の参加も注目を集めた。市内におい

では、キャンプに関する横断幕やポスターなどがいたる所で掲げられるなど、石垣島はキャンプ一色に染まった。

3. 石垣島におけるロッテキャンプの経済効果について

キャンプの経済効果について、大きく区分すると、まず、来島者（球団、マスコミ関係者、キャンプ見学のためのファンの来島など）の島内での宿泊、飲食費、地元客が見学等で消費した飲食費、グッズなどの購入費、キャンプを開催するための球場整備や交流会開催などの支出があり、これらを直接支出額という。

次に、上記で支出されたものは、すべて県内では生産されたものではないことから、直接支出額に県内での自給率を掛けたものを直接効果といい、さらに、これらの支出により原材料の調達や従業員の所得増加による消費を通して他の産業の生産額の増加に波及していく波及効果がある。

そして、直接効果と波及効果を合わせたものが、経済効果（総合効果）となる。

（1）直接支出額の試算

今回の石垣島春季キャンプ関連の支出額の主な内訳をみると、球場の改修などの練習施設場等の整備費が3億1,200万円、交通費が1億5,200万円、宿泊費が1億3,000万円、飲食費が9,900万円、土産購入費が7,500万円などとなっており、これらを合計した8億3,200万円が直接支出額となる。

（2）経済効果の試算

ここで、（1）で得られた直接支出額を22の産業別需要項目に区分し、産業連関表を用いて県内各産業への波及効果も含めた経済効果を算出した。

まず、県内の産業全体の自給率は100%ではないため、（1）で求めた直接支出額に県内での自給率を掛けて算出した額が7億8,300万円となり、これが直接効果となる。

次に直接効果である練習設備等の整備費、交通費、宿泊費、飲食費などが県内で支出されると、当該産業だけでなく、こうした産業に原材料、サービス等を提供している産業への売上増加へと波及していく。これを1次間接波及効果といい、これが3億2,000万円となる。

さらに直接効果、1次間接波及効果のように各産業へ波及した効果は雇用者の所得へと結びつき、これらの雇用者の所得が消費へと繋がり、消費を通して各産業の生産を増加させていく。これを2次間接波及効果といい、これが2億4,000万円となる。

これらの直接効果、1次間接波及効果、2次間接波及効果であるそれぞれ生産誘発額を合計したものが、13億4,300万円となり、これが第1回目となる石垣島におけるロッテ春季キャンプの経済効果となる。また、これらの効果のうち、原材料やサービス等の仕入れを除いた分が粗付加価値（7億2,800万円）となり、この中で雇用者へ支払った賃金等が

雇用者所得（3億9,600万円）となる（図表1）。

（図表1）産業連関分析による経済効果の試算結果

	生産誘発額 (百万円)	粗付加価値 誘発額 (百万円)	雇用者所得誘 発額 (百万円)
直接効果	783	387	247
1次間接波及効果	320	185	84
2次間接波及効果	240	156	64
総合効果	1,343	728	396
直接支出額 (波及効果)	832 (1.6倍) = 総合効果/直接支出額		

- (注) 1. 直接効果は、直接の支出による効果(自給率が100%でなければ移輸入の分、直接支出額を下回る)。
 2. 1次間接波及効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。
 3. 2次間接波及効果は、直接効果、1次間接波及効果によって生み出された雇用者所得の増加が個人消費の拡大を通して再び生産を誘発する効果。
 4. 生産誘発額は、直接支出の増加により誘発された各部門の生産額の合計。
 5. 付加価値は、誘発された生産額の中に占める粗付加価値(雇用者所得と営業余剰)。
 6. 端数処理により合計は合わなくなることがある。

(3) 産業別の波及効果

今回の経済効果である生産誘発額13億4,300万円を産業別にみると、キャンプ開催のための球場改修などから建設業(3億1,800万円)が最も大きく、次いで運輸業(1億8,700万円、主に航空、バス、タクシーでの移動等)、鉱業・製造業(1億5,000万円、主に土産品や建設関連の資材を中心とした製造業)、宿泊業(1億3,000万円)などの順となっている(図表2)。

（図表2）産業連関分析による産業別経済効果の試算結果

産業区分	生産誘発額 (百万円)	粗付加価値 誘発額 (百万円)	雇用者所得誘 発額 (百万円)
建設業	318	155	118
運輸業	187	88	61
鉱業・製造業	150	56	23
宿泊業	130	66	37
飲食店	88	40	25
商業	80	56	40
その他対個人サービス	57	39	17
電力・ガス・水道	37	19	7
公務・その他の産業	295	207	69
合計	1,343	728	396

4. おわりに

今回の石垣島キャンプは大きな経済効果を生み出しただけでなく、石垣島の情報がマスコミを通して全国に発信されるなどのPR効果も大きい。また、プロが使用した球場などは、社会人や大学等の野球部の合宿にも数多く使われ、経済効果は、キャンプ後も多大なものがある。その他に、キャンプを通して少年野球教室が開催されるなどプロ選手と直に接する機会などの教育効果も大きい。

このように、プロ野球のキャンプの効果は多岐にわたることから、今回のキャンプを一過性のものとするのではなく、今後の地域活性化につなげていくことが求められよう。

以上